2022年3月6日の広布唱題会の様子

慧光山 法遍寺（えこうざん ほうへんじ）について　　住職　近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依（きえ）し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ 「命は一身第一の珍宝と知る仏道」

わが命、身体も頭も心も、どれほど何に使っているかと問われると、小生なぞそのごく一部をかつ浅く用いているだけと恥じるしかない。大聖人は病弱な富木殿の妻、尼御前に対し激励された。「法華経は定業の病すら治す。命は一身の第一の珍宝である。この尊い命を法華経に奉りなさい。これを惜しめば治し難い。一日生きて功徳を積む志を持ちなさい」（御書760～761頁　趣意）と。尼御前は篤信・貞節・孝養の人であった。女性にとって法華信者の鑑である。しかし病魔によって気を落とした。大聖人は一日の寿命を妙法に奉る覚悟をもって勤めるよう激励され、尼御前は延命の実証を得た。この覚悟とは、仏性ある我が身、命を信仰に使うことである。これを「聖道正器の人」という。軽薄な人生とならぬよう、仏の遣いたる正器となろう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ（創価学会破門の経緯を知らない方へ　その20）

前号に続く『院達』の③には「学会にあっては、6･30、11･7につき、さらに全会員が充分その経緯と意義内容を理解し納得するよう説明徹底を怠ってはならない。そのためには、過去において正宗の化儀化法から逸脱していた部分を明確にし、またそのような指導を行なったことについて率直に反省懺悔し、再び過ちを繰り返さぬことを誓う姿勢を忘れてはならない」（趣意）と宗務院は以上の三点を明示し、僧俗双方に、今後の進むべき方向を示した。この日顕上人の訓戒を受け、学会は直ちに逸脱路線の内容を記した『特別学習会テキスト』を作成し是正の姿勢を示した。このように、学会の教義逸脱による「52年路線」は、日達・日顕両上人の慈悲と活動家僧侶の活動によって一連の誤りが糺されるに至った。（次回 自称「正信会」への処分）

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ（果報とは何か）

世間では「果報者」「果報は寝て待て」というと良い意味で使われるが、本来の意味は善・悪業のいずれにも通じており、報いとして表われる結果をいう。「因果者」「因果なやつ」も同義である。仏法は過去・現在・未来の三世に連続する生命の流れとして、生老病死などの四苦・八苦を説き、また十二因縁（三世の因果）などを宇宙法界の絶対原理とする。この永遠の生命観に立脚した因果論は、人の生きる道を存在の基底にある生命の問題に焦点を当て究明するのである。仏は、「仏界」の生命を開く要件と「因行果徳」を得るための法と修行を明らかにされた。これを本因妙の修行という。法華経の御本尊に帰命し南無妙法蓮華経と唱えることである。身土不二の原理により自身も環境も変わる。真実の「果報者」となるべくお待ちしている。

第62号

法遍寺から大切な皆様へ

2022年4月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で歓喜の行動

苦難を開く
勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布へ躍進

諦めず
最後まで

③御報恩の登山と寺院参詣で人材育成

渇仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・
支部総登山

〒488-0881
愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1
（TEL:0561-54-9226）

相談無料